

平成30年度 自己評価書

学校名	和歌山市立貴志南小学校
校長氏名	犬塚 博志
作成日	平成31年3月15日

1 教育目標

21世紀に生きる望ましい人間像をめざし、一人ひとりの子どもの主体性・創造性を養い、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性のある子どもの育成を目指す。

—たかましい子、やさしい子、考える子—

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	たくましく健やかな体	大きく豊かな心	確かな学力
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携充実 ◎保幼小の接続、中学校区における学校間連携の推進 ○地域の資源活用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎いじめの未然防止、早期発見 ◎インクルーシブ教育の普及 ○道徳・人権教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎・基本の確かな定着 ◎子供主体の授業の推進 ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進
取組の状況 【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの活用 ・児童集会への参加啓発 ・育友会行事、子どもセンター事業への参加啓発 ・地域の人材の活用 ・体験活動の重視 ・行事等の広報活動 ・学校開放月間の広報活動 ・「貴志の教育を高める会」「貴志地域共有コミュニティ」の活用 ・コミュニティスクールの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨する。 ・視力低下、乱視・斜視傾向が増加。 ・「わんわん貯金」を活用し、生活習慣の見直しを図る。 ・体力づくりを一層促進し、記録会や大会参加を促して体力の向上を図る。 ・性教育を一層推進する。 ・着衣泳、避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、危機対応能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティアを募り、「うちどく」をはじめとする読書の推進 ・ペア学年活動や仲間づくりの活動の工夫(運動会種目でのペア活動) ・生活習慣の確立 ・あいさつ・整頓の励行 ・体験活動の重視 ・QU等アンケート調査の実施 ・道徳の研究授業を校内だけでなく、他校の教員も招いて行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字博士検定の実施 ・補習学習(放課後・夏休み等) ・各教科指導で「書く・聞く・話す」に重点をおく。 ・取り出し指導など個に応じた学習の導入 ・小グループ学習の導入 ・体験を通じた学習の重視 ・学習習慣、学習環境の確立 ・和歌山大学教育実習生を受け入れる。 ・研究のまとめを作成する。
取組の成果と課題 (評価結果)【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の公開のためのHPは可能な限り更新できた。「修学旅行速報」「5年生宿泊速報」も行った。 ・地元の農家の方に指導していただいた野菜作り、米作りは体験を通じた学びを得られた。 ・育友会や子どもセンター主催の「夏祭り」「餅つき大会」「親子ドッジ大会」など参加者が激増した。保護者・地域の方々の参加を得、交流が深まった。 ・集会等では多くの保護者に参加・参観いただけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食をとる、食事前の手洗い、夜の歯磨きなどは、習慣づいている。 ・就寝時刻は遅い子が多く、睡眠不足、遅刻につながっている。 ・ミニバスケットボールは大勢加入して活発だが、陸上は参加児童が減りつつある。 ・兵庫県からネットトラブルの専門家を招聘しての高学年への授業は、大変インパクトがあり、効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは児童会や先生によるあいさつ運動により活発になった。見守り隊の方々も積極的に挨拶を促してくださっている。 ・民生児童委員の方々が毎月1回校門であいさつ運動をしてくれ効果を上げている。 ・「いじめアンケート」に加え、QU調査により、児童の関係性の把握に努めることができ、アンケート結果からも学校全体の意識も高い結果が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「にじ色ルーム」に加え「りり色ルーム」も設けての個別の指導は、成果は認められるものの、教員数の関係で必要最低限の時間数である。 ・「九九階段」「いろは階段」やデジタルサイネージでの学習クイズ等の学習環境づくりは一定の効果が認められた。 ・学生ボランティアによる授業補助、外部の講師を招いての「出前授業」は普通の授業を活性化できた。 ・放課後フォローアップ事業で支援員・学生ボランティアとともに担任による補充学習は有効。
改善方法 【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・学級懇談会の参加が少ないので、学級だより等の研究をし、より分かりやすい広報について研究する。 ・育友会と子どもセンターで見守り隊の方に謝意を示す「餅つき大会」などを広めていきたい。 ・特別支援学級の初詣体験のように地域素材を教材化し開発するよう努める。 ・「学校運営協議会」で対案された「図書ボランティア」は次第に活性化してきたので、このまま次年度へつなげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わんわん貯金」を行うこと自体が、子どもたち自身、改善意欲につながっているため、次年度は、頻度を上げるか長期の調査にするなど試行してみる。 ・実際に地震が起きた時に、反射的に身の安全を確保できる児童が増えたが、家庭で災害にあった時の対応については、次年度より指導を強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関や支援学校等の連携をさらに強め、特性ある児童の教育環境を整えていく。 ・特別支援学級との交流を更に活性化して、児童への障害者理解を促進していく。 ・「特別の教科 道徳」の授業の充実を図ると共に、特別活動・総合的な学習の時間・生活科など体験を通じて、実践力を養う。また、意欲につながる評価についても研究していく。 ・アンケート等の結果からは読書量の減少は改善されつつあるが2極化している。特に家庭での読書時間の確保の協力を仰ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」は今後もアンケート評価100%目指し研修等を通じ授業力を高めたい。 ・今後も、あらゆる子どものために環境や授業のユニバーサルデザイン化を図ることを基本としたい。 ・道徳・外国語の教科化、中学年の外国語活動に伴い、指導力の育成を進める。 ・今年度、熊本から国語活用力向上の有名な先生を招いての本校主催の研修会では、他校の教員130人が参加した。来年度は費用を分担しあってでもこういった研修を行い、学力向上につなげたい。

3 その他の課題

・年々、個別の支援を必要とする児童が多くなっている。来年度はどれだけの教員を充てられるかは未定だが、大勢の中より個別の指導が望ましい児童のために努力したい。また、関係機関と連携をとりながら、その子にとって最善の環境を提供していきたい。

・校舎の老朽化が目立つが、関係者評価やアンケートでは少しずつ評価があがりつつあるのは、プール・廊下・階段の壁を職員で塗り替えしたり、少額でできる改修を地道に行ってきた成果と考える。また、教育委員会のおかげで、教室の空調設備が稼働し、児童全員の机・椅子が新調でき、全教室に大型モニターが入ってICT活用した授業が行い易くなったことが評価向上につながった。

・コミュニティスクールを導入し、地域・保護者の方々の来校が増えた。